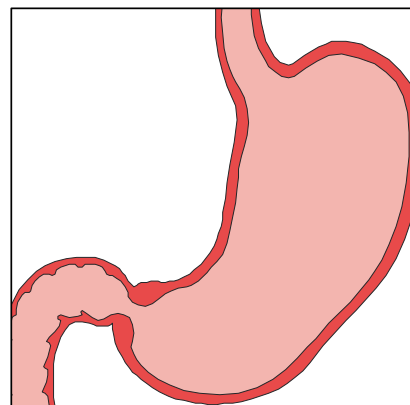


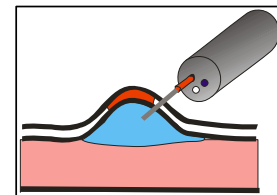
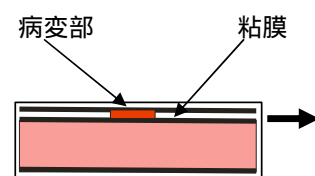


	入院	内視鏡治療当日	治療後1日目	治療後2日目	治療後3日目	治療後4日目	退院
日付	日	日		日	日	日	日
内服 	・他院・他科の内服薬があれば、ご持参ください。 ・薬剤師が内服薬、点滴の説明を行います。	・出血を止める薬の内服をします。	・潰瘍治療の内服を開始します。				
輸液 		・内視鏡室へ行く前に 点滴 ()本(ml) ・帰室後、点滴()本(ml) ・朝、夕に抗潰瘍治療薬各1本(静脈注射)	点滴 ()本(ml)	点滴()本(ml)	点滴 ()本(ml)		
処置 		胃内視鏡 (胃粘膜切除術) (治療は内視鏡室で正午頃行います) ・治療前に胃の粘液を溶かす薬を飲みます ・のどを麻酔し、胃の動きを止める薬を注射します ・治療直前に鎮静剤を注射します					
検査 	・血液検査、尿検査 ・出血時間 ・胸・腹部レントゲン ・心電図	・内視鏡で病変を切除し回収します 重要! 切除の際に高周波電流が流れます。その際に痛みを感じたら、お知らせください。 ・回収した組織は顕微鏡での検査に提出します。 ・ 切除術で起こる可能性のある合併症には出血・貧血・穿孔・腹膜炎などがあります。	・胃内視鏡(治療後1日目~退院の間に行います)				
食事 	常食 ・午後9時から翌朝まで、食べ物は口にしないでください。 ・水だけは飲めます。	絶食 ・朝から翌日の朝まで、食べ物は口にしないでください。(術後2時間を経過したら、水やお茶を飲めます。)	朝から流動食 ・牛乳、飲むヨーグルトは飲めます。	朝から5分粥食 ・水、お茶、牛乳は飲めます。	5分粥食	朝から潰瘍食全粥 ----->	潰瘍食全粥 ----->
安静度 	・特に制限はありません。 ・入浴ができます。	・6時から9時までシャワー浴ができますが、その後は入浴・シャワー浴はできません。 ・ストレッチャーか歩行で検査室(36番内視鏡室)へ行き、ストレッチャーで帰室します。 ・帰室時と3時間後に体温、脈、血圧、症状の観察をします。 3時間後看護師の付き添いで歩行し、その後、気分不快がなければトイレ、洗面可です。	・シャワー浴ができます。 ・院内は自由に歩けます。	・入浴ができます。	----->	----->	----->
説明 	・主治医より治療についてご説明いたします。(時頃) ・看護師より入院中の予定についてご説明いたします。 重要! ペースメーカーなど手術で金属を体内に残している場合には事前にお知らせください。	術後の注意点 腹痛 嘔気・嘔吐・上腹部不快感 (もどしたり、吐き気がする。胃付近の不快感。) 下血・吐血 (黒い便が出る。血(赤や黒)を吐く。) ・術後より症状の観察を行っていきます。これらの症状出現したら、直ちに看護師にお知らせください	・看護師より胃内視鏡の説明をいたします。 <退院に際してのご説明> ・食事:退院後1週間は「潰瘍食・全粥」に準じた消化の良い食事を摂ってください。 ・内服:治療後、切除した部位に潰瘍ができるため、1ヶ月間、抗潰瘍薬の内服が必要です。 ・次回外来日:(月 日) この日に切除した組織の検査結果をご説明いたします。 ・日常生活:退院から2週間、潰瘍悪化(出血)の予防のため禁酒、禁煙をお守りください ・緊急時の連絡先:術後の注意点に示した症状があったら、直ちに内科外来又は救急外来にご連絡ください TEL 025-233-6161				

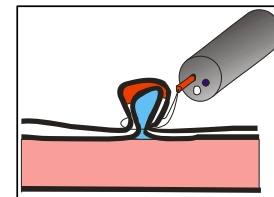


【切除の方法】

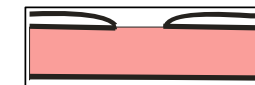
【胃壁の断面図】



内視鏡で観察しながら、粘膜下に薬剤入りの食塩水を注入し、病変を隆起させます。



鉗子や吸引で病変部を更に持ち上げ、基部を切除用のワイヤーで絞めて、高周波で切除します。



切除した切片を回収し、顕微鏡での検査に提出します。切除した跡は人工的な潰瘍となります。

